

## ひとりごと

どーも、上智大学3年の青笹です。今回は主に3つの項目について触れたいと思います。先に一つ言っておきたいのが、これは題目の通りひとりごとでしかなく、君たちに教授するものではありません。ぼくがディスカッションを通じて感じたことや得たものをただ羅列していただけなので、鵜呑みにせず自身の思考の糧にしてください。今回は、

### I. Objection

### II. Comparison 観について

### III. Dis 中の立ち位置、Authority について

の3つについて、自分の経験を踏まえて感じたことを伝えていきたいと思いません。

## I. Objection

さて、ディス界のぼくに対するイメージというのは大抵「コンテンツ強いやつ」とか「反論すげーしてくるやつ」とか「なんか偉そうなやつ」とかそんなだと思います。そのニーズに応じて今回はこういったレクチャーを書いています。まず言いたいのは、基本的な QCS をできない人には反論は出せないということです。そう、ぼくも QCS くらいはできます。笑 ということで反論を出すための前提部分から筋道立てて書いていきたいと思いません。

### I - (1) 反論の前提

反論を出すためには前提としてできなければならないことがいくつかあります。一つ目は相手の言っていることを理解する、いわゆる **Understanding** というやつです。相手がなにをどういうロジックで言っているのかを正しく理解することから組み立てが始まります。それを引き出すのが **QC** ですね。まあ **QC** については他の素晴らしい同期たちが素晴らしいレクチャーを書いているのでそちらを参考にしてください。笑

次にそれを構造化する段階に入ります。三角ロジックに基づいて話されているのか、ストリームになっているのか、**claim** を成り立たせるために最も有効な構造に **C** していきます。そしてそのどこに反論を出すのが最も有効かという選定

に入るわけですが、ここからは自分の思考や意見に戻って行きます。

## I-(2) 反論の形と選定

ストリームに対する反論の出し方はおそらく想像通りそれぞれの **Link** にすることになるので、今回は三角ロジックに対する反論について触れようと思います。

反論を主に六つに分類します。

- ① Claim
- ② Data
- ③ Warrant
- ④ Interpretation
- ⑤ Applicability
- ⑥ Structure

### ① Claim

これは簡単ですね。いわゆる逆ロジックというやつです。全く同じ **Data** と **Warrant** を用いると、相手の言いたい **Claim** と真逆の **Claim** が立つということです。「死にそうな人(**Data**)はより深刻な状況下にあり、'弱者'であるから救うべきだ(**Warrant**)」という **Claim** に対して、「死にそうな人はより深刻な状況下にあり、'弱者'であるから救わなくていい(**Warrant**)」という **Claim** をぶつけられる理由を考えてみよう。

### ② Data

$A=B$  に対して  $A=D$  (**B** と逆の概念)とするのが **Data** における反論になります。後述の **Interpretation** でも触れるのでそこを参照してください。

### ③ Warrant

上述の例を使えば、「より深刻な状況下にある死にそうな人は'弱者'ではない」という反論になります。**Data** が立つ上でも **Warrant** は成り立たないことが多いので注意してみよう。**RSN** を深掘りして行って反論するのも **Warrant** に対する反論の一種とします。

#### ④ Interpretation(解釈)

これは単に相手の解釈が間違っている、という否定です。逆の議論をぶつけるわけではありません。A≠Bなどが反論の Claim になります。数学的に言えば逆や対偶が立たなければ真ではない、というアプローチか、命題そのものを偽であると立証することと同義です。

#### ⑤ Applicability(適用性)

A=B であるという Data やそれに基づいた Warrant がその Dis においては正しくないという反論をすることです。医療論題のときに「脳死者は生物学的に生きている」「胎児は国籍がないから死んでいる」という客観的な事実は Data たり得るが、「脳死者は生きている」「胎児は死んでいる」という Dis においては重要な論点になる部分は立証できていませんね。また、コンパリで頻出するのは Example が果たして適用されるかどうか、になります。

#### ⑥ Structure(構造)

その Data、Warrant によって立証される Claim には m/s/b あるいは日本政府の政策決定において考慮する必要がない、あるいはしてはいけないという反論になります。「刑罰を与えられる人間は救わなくていい」としたら、SQ で禁止されていることを認可する Plan は全て NFC がないことになりますが、果たしてそうでしょうか。少しマクロな視点からの反論になります。

これらの分類そのものに特に意味はありませんが、自分の反論がどういうものなのかを自覚していればほとんどごちゃることはありません。どのロジックにも必ず穴があって、そのどこが一番大きい風穴なのかを選定してみましょう。つまり、相手のロジックを見た瞬間に6つの反論を頭に浮かべるわけです。それに合理性のある Data と Warrant をつけられるかを頭の中でシミュレーションするか、直感に任せるか、相手によってもテーブルによっても違ってくるのが難しいところであり、おもしろいところでもあります。

余談ですが、ぼくはプレゼンがあまりうまくないと自分で思っているので、語弊を恐れず言えば、テーブルにバカがどんくらいいるか、とかが結構重要な選

定基準になったりしていました。笑 自分のプレゼンや性格も踏まえて反論の仕方を考えるとよいでしょう。

## II. Comparison 観について

ここでは、比較とはどういうものなどという話ではなく、PDDにおけるコンパリってなんだろうねっていう部分について話していこうと思います。もちろんぼくがどう思っているかということをお話しますが、留学に行っている東京大学3年桑原君の遺言(?)でもあります。笑 比較検証とは、とかおそらくみんながこれからも考え続けなければならない **3impact** を利用した比較の方法とかについてはいずれ改めてレクチャーというか資料を書こうと思います。(おそらく春セミ期頃になるかと)

## Decision Criteria としてのコンパリ

あえてはっきり言うと、上位層と比べて中位層、下位層の人たちに圧倒的に足りていないのは、コンパリが日本政府の政策決定を左右するものとして行われている、という意識です。一番基本的な前提で、**Narrowing** でもコンセンサスになっていますね。こう言われるとみんな、わかっているとか知っているとかがあって思うと思いますが、今までのコンパリで用いたロジック、見たロジックを思い直してみてください。本当にそれは日本政府の政策を施行する大義名分たり得ているのでしょうか。ぼくはそういうロジックを見たことはほとんどありません。じゃあ上位層の出すコンパリがそんなに素晴らしいロジックなのかというところではありません。ぱっと見のコンテンツは同じなことが多いですね。しかし、その意識、あるいはそれに必要な段階や要素の理解が言葉選びやプレゼンに表れてきます。

ここでは **QL** コンパリを一例に挙げてみたいと思います。

「脳死患者>患者 脳死患者は臓器移植をされた結果死ぬため、その死は拷問されて拷問されるに等しいが、臓器提供を待つ患者は定められたものとしての死を免れられなかっただけであるから自然死に等しく、拷問と自然死の **Seriousness** 比較に関しては明白である」

このロジックに対してそもそも違和感(前述の反論で言えば⑥)を感じるはずで  
す。それぞれの死が拷問、自然死に等しく、拷問と自然死の **Seriousness** 比較

が正しいものであったとしても、それは医療論題ひいては臓器移植に関する政策決定に影響を及ぼしていい比較でしょうか。数学的に記号だけを見れば正しいわけですが(前提さえ整ってればロジカルであるとは言えますね)、それを正しいと言ってはいけない、言ってしまっただけでは政府たり得ないだろうというロジックは大量に存在します。それを PDD だから、ゲームだからでよしとするのがぼくは好きではない、ということです。

では、どういうコンパリであればよいのでしょうか。完璧に Decision Criteria と言えるだけのロジックはあるのでしょうか。個人的にはないと思っています。たり得ていないロジックをたり得るように論理的な根拠をつけ、説得するためのプレゼンをしていくのがコンパリです。比較する範囲、内容をどこまで限定してよいのかを議論していった結果、「この側面だけを見て政策決定の要因としてのコンパリとしよう」という S をテーブルにしているわけです。

### Ⅲ. ディス中の立ち位置、Authority について

この項目では、ぼくがどういう風にディスについて考えていたか、ディスに臨んでいたかを話そうと思います。

#### Ⅲ-(1) 目的意識

2 フレでディス界に入った分遅れていたもので、まずアッセンで 1 位になろうという目標を立てたわけです。そのためには 2 年の後期にセオリ理解、春セミ期にトリート、アッセン期にコンテンツをつけたハンドリングを主にやろう、という漠然とした計画を立てていました。特に春セミ期はトリート以外のことは一切やらないと決めていたのですが、具体的になにをしようというものがあつた方が、チェアパや同期の誰とディスしてどういうことを試そうという自分の課題が明確化されます。だからこそ普段のディスの前に PPS を聞いているわけですね。最近エジュケしていて、うまくなるだろうなって後輩とそうじゃない後輩は PPS を聞くだけでわかると言えるくらいには重要だと思っています。それをディスを引退するまで、のマクロな範囲に広げた目的意識やそのためのステップを確認してみるのも案外成長につながるかもしれません。

### Ⅲ-(2) 先を見通す力

ぼくが自分の最も秀でている能力を挙げるとすればそれはコンテンツとかではなく、ディスカッションの行末を見通す力だと思います。このまま進むとどういふ議論が展開されて、どういふごちゃりや矛盾が発生するのか、といったことをいち早く理解できるということです。その発生を避けるためにみんなを誘導するのも一つの手ですが、ぼくが得意としていたのはみんなが理解していない段階からその発生を示唆し続けて発生した段階で自分のハンドリングの中に議論がおさまるようにする手法です。途中まで理解できなかった主張がディスを進めていく間に理解されていくので、テーブルでの **Authority** は徐々に上がっていくということです。最初から最後まで自分の展望の中でしか議論が起きないなら、どんなディスであっても自分の役割を保てるはずですが。

ではその先を見通すのにはなにか特別な才能が必要なのかというと、そうではありません。少なくともぼくは実戦を重ねることで伸ばしてきた力なので、そこにプレパの重要性を見出していました。相手の人となり、ディスカッサントとしての能力や、流行りの論じ方を理解するには実戦しかないと思うし、その理解があれば、そう難しいことではないと思います。

### Ⅲ-(3) S から始まるディスカッション

ぼくは勝ちにいくディスよりも、おもしろい議論をしたい人間です。プロシ争いやカンファメ合戦にももちろん技術は出てきますし、そこに間違いなく価値はありますが、単純にぼくにとってはつまらないし嫌いなので(笑)、いかに論点を提示するか、そしてどうやってそのコンテンツまでテーブルをもっていくか、というのがかなり重要でした。最終的にぼくがやっていたのが **S** をとにかく打つというアプローチでした。先を見通す力にも関連していますが、どういふ論理破綻が起きるかを説明し、話すのをやめようということを最初にいうわけです。コンパリであれば簡単ですね。ロジックを見た瞬間に反論を提示するわけです。定義に違いがあれば、そこでマスト **Q** の答えも拾うことができるし、その **S** に対して **Q** を受け付ける間に相手のロジックに対する **QC** がある程度は終わるといった寸法です。

ただし、もちろん難点もあります。というか難点だらけです。笑  
大抵の場合は **S** が理解されません。そこまでの **QC** が終わっていない状態で始まるので当たり前ですね。そこで誰かにうまく入られると、最初の相手のロジ

ックに対する QC も、自分の S に対する QC も取られあまつさえ S すらも取られてしまうリスクが低くはありません。なので、S からはじまるとは言ってもやはり議論の中身として QCS が含まれているべきですし、そのための技術は不可欠になります。ぼくのようにコンテンツを話したい人には試してもらいたいのですが、決しておすすめはできません。深い議論をしたいためだけのあまりよろしくない手法です。笑

#### IV. 最後に

去年のぼくより下手な 2 年生ってほとんどいないと思います。まだまだ誰にでもチャンスはあると思うし、ぼくは全員同じようなもんだと思っています。結果を残してきた 2 年生には酷かもしれませんが、今まで頑張ってきた努力がいくら賞賛には値しても、ここからの 1 年で抜かされてしまえばそれまでです。逆に残せなかった人はここからです。おごらず、卑下せず、前を向いて歩いてください。おごった人の鼻、折りにいきます。卑下して自信を失った人、いくらでもサポートしましょう。それがぼくに鼻を折られたからだとしても。笑

ぼくの同期は幸いにも君たちにいろんな意味で育ってほしいと思っている人がたくさんいるので、是非頼ってください。ぼくも暇なので呼ばればいきます。誰でも気軽にどうぞ。結構わかりにくいこと書いているとも思うので、なにかあれば聞いてください。

2015 年度上智大学チーフ

青笹 雅史

Mail: [msfi121@icloud.com](mailto:msfi121@icloud.com) Line: sasasasa1221